

ソエマツ川南西面直登沢～ソエマツ岳～中ノ岳ノ沢～中ノ岳

2017/8/13～16日

L高橋岳、五島(北大山の会)

昨年、一昨年とお盆の休みに豪雨や台風が重なり日高の沢から遠ざかっていた。今夏は雪渓が少ないだろうと思い狙った先はソエマツ南西面と岳ノ沢の継続。沢登りにハ マリ意欲的に活動している後輩にも恵まれ準備山行も十分できた。人里離れた原始の渓谷、自由にラインを描ける日高山脈での継続行は自分にとって夏山の原点だ。今回もタープのみの焚火生活、プリミティブ装備で実践した。デルスーの様に焚火の脇で眠るのだ。

【Time record】

■8/13：(08:30)ソエマツ川林道ゲート(10:50)林道終点(11:10-12:00)ピリカ北西面 直登沢出合(12:30)ソエマツ南西面直登沢出合(15:50)Co700二股=C1泊

■8/14：(4:30)出発(07:30)Co970二股(11:00-11:30)ソエマツ岳(14:00)ソエマツ岳北面直登沢Co650=C2泊

■8/15：(03:00)出発(03:40)中ノ川奥二股(04:40-5:00)中ノ岳ノ沢出合(15:30)Co850=C3泊

■8/16：(05:00)出発(06:00)Co1200二股(07:30)中ノ岳(07:40-09:30)ニシオマナイ川Co950大滝(12:10)神威山荘(14:30)ソエマツ川林道ゲート

■8/13 曇り～霧雨 約15°C

ゲートに車を置き出発。林道歩きには丁度良い気温だ。ソエマツ南西面出合いから小滝、函が一休み毎現れ次々突破して行く。寒いが極力水線から逃げずに取り組むのが今回のポリシーである。3段Fの連瀑は1段目右岸登り、水流跨いで左岸へ。2段目はトラバースラインが見えたが結局2、3段目まとめて左岸側を捲いた。この捲きが悪く、お助け紐を1箇所出した。C.S函滝を空身突破&ザックつり上げを一回。やがてV字ゴルジュ入口の滝に出会う。これは左岸から捲きすぐ 25m懸垂でV字ゴ

ルジュ内に降りたつ。泳いでどんづまりにある滝まで進んだあと少し戻り、右岸からどんづまり滝の上まで捲く。Co700二股の右股に少し入った所に適地を見つけC1とした。薪が豊富で尻暖まる。夕方から小雨。夜半に山椒魚の来客あり。



■8/14 霧雨～曇り 14℃

今山行はオホーツク高気圧のおかげで天候は安定しているがずっと霧雨に包まれてぱっとしない。Co760～810は見事なV字溪谷でC.S.滝、チムニー突っ張り系の滝が続く。Co810二股付近は雪溪の残骸があったがやはり今年は少ないようだ。出合いの直瀑を左岸からBush帯伝って捲き、直登困難に見えるナメ噴射滝の上までまとめて幾つか捲く。CS滝が見えた所で草付きを伝って沢身に戻る。1968年この捲きで亡くなった西信氏に黙祷する。



CS滝、水流突っ張り滝が続き、Co900の滝に出合う。ここはテンバの記録があるが、今は平地が無くガれていて不適。滝は左岸ルンゼから悪い捲きでBush伝ってすぐ沢に降りる。Co950沢が右に屈曲する10mスライダー滝を高橋がザイル

出して直登。延々V字溪谷内を進みCo980m二股の40mFは右岸からザイル出して直登(五島) 次のCS滝は高橋が空身で直登、ザックつり上げ。あとは特筆する滝は無く、V字チムニーをひたすらシャワークライムして高度を稼ぐ。凄い俯角で谷が見下ろせる。詰めは薄い藪漕ぎでコルに出、ソエマツ山頂へ。Peakから北面へシカ道辿って降りて行くとすぐに岩盤の沢型に出た。下

り易いキレイなナメで快適。Co1150から大崩壊地形となり伏流しCo650までほとんどガレ。快適テンバを発見し早めにC2とした。気力も充実し翌日岳ノ沢に入ることと決め、腹いっぱい食べて酒飲んで寝る。山はずっと霧の中。

■8/15 曇り～霧雨 14→12℃

未明からラテルネ点けて出発し、夜明けに岳の沢出合いに到着。予報通り昨日よりも寒い。全ゴルジュ突破が今日の目標だ。全ゴルジュを通過したのは1パーティーしか知らない。序盤Co600付近の2段釜ゴルジュは五島



志願で釜を泳いで取り付く。2段目奥は水量が多いCS滝でかなり難しい。

「どうする？」と顔を見合わせる。

「側壁、ショルダーで上がって、あとはボルダームーブで・・・」と五島。「そんなのできるかい」と思ったが、五島が釜に浸かって高橋が肩に立ち、ツルツルの側壁上部に走るリスに背伸びしてハーケンを浅打ちする。エイドで何とか側壁上部のホ

ールドまで登りマントルを返しに行く。もらった！と思ったその時。セルフビレイを外すのを忘れていた事に気付く、マントル体勢から体が上がり釜にドボン！ハーケンも抜けた。初めからやり直し上部岩壁に抜くビレイ。結局この滝の処理に1時間半かかり多めに消耗した。この後すぐの斜瀑はヌメヌメでとても悪いトラバースを五島リードで大いに粘り最後は落ち口へ決死のジャンプ！しばらく手強いものは無く雪溪対処の中盤戦。微妙な雪溪の対処で捲いたり懸垂したりを数回。

（雪溪対処で懸垂はこの日2回）終盤はCo760付近に手強い釜持ちゴルジュ。一番奥の滝がハングしおり全身釜に浸かってショルダーする必要がある。水量も多くシビア。既に度重なるダイブで体脂肪一ケタ台の高橋は体の震えが収まらず、これ以上低体温が進むとヤバいと判断しゴルジュを戻って右岸から無念の高捲き。最低限の捲きにとどめ、立木で15m、30m斜め懸垂で敗退した釜滝の落ち口に降り立つ。以降の函は全て突破した。テンバ手前にデカイ雪溪もあり震えながらCo850テンバに着き、濡れた薪を集めタープの下で時間をかけて火を

くべる。火がついた時の嬉しさと言ったら。ここは雪
溪が近くにあるので冷蔵庫の中みたいだ。吹き付ける霧に
凍える。五島のザックからビールが出た。



■8/16 曇り～時々晴れ

夜通し焚火にあたり震えた朝。今日こそは太陽を拝みたい。

テンバからは登り易い滝が延々続き、あっという間に
詰めのコル。藪も薄い。シカ道と廃道の踏み跡たどり中
ノ岳PEAK！ 下降は、南の肩Co1370からニシオマナイ
川へ降りる。30分程深い藪を漕ぐとヌメった逆層っぽい
岩盤にでた。晴れ間も出てきて太陽に感謝。Co950の岩
壁帯では懸垂20mを2回。あとは河原を歩いて神威山荘
に出て、林道10km歩いて下山した。

